

7 みやざきG7通信



G 7 宮崎農業大臣会合協力推進協議会通信

発行第10号 2023年5月2日(火)

G7宮崎農業大臣会合への御支援・御協力ありがとうございました!

4月21日(金)から23日(日)にかけて、G7宮崎農業大臣会合及びサイドイベント等が開催され、皆様のおかげさまをもちまして、無事に閉幕しました。

各国等の代表の皆様は、宮崎の農業に関心を寄せられたり、宮崎の食に舌鼓を打ったり、子どもたちやサポーターを含めた関係者の皆様のおもてなしに笑顔を向けられ、終始宮崎を満喫されたご様子でした。

また、会合の共同声明とともに、G7農業大臣会合では初となる行動計画「宮崎アクション」が採択されました。

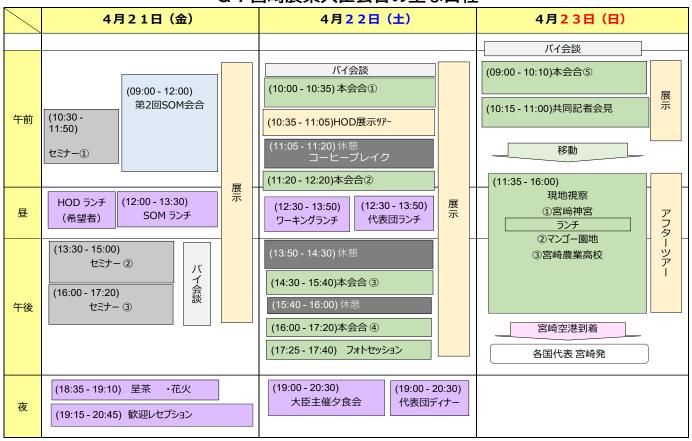
以下、会合の様子を御紹介します。通信の最後には、「宮崎アクション」の全文も掲載しておりますので、併せて御覧ください。

名 称	G 7 宮崎農業大臣会合
日 程	令和5年4月22日(土)~23日(日) ※21日(金)からサイドイベント開
	始
会 場	シーガイアコンベンションセンター
オフィシャルホテル	シェラトン・グランデ・オーシャンリゾート
参加国	G 7 メンバー:日、米、英、独、仏、伊、加、E U
	国際機関:FAO(国連食糧農業機関)、IFAD(国際農業開発基金)、
	OECD (経済開発協力機構)、WFP (国連世界食糧計画)
参加人数	G7メンバー国+国際機関(日本を除く) 100 人程度
	日本政府代表団 40 人程度
	<u>日本政府スタッフ(ロジ) 80 人程度 合計 約 220 人</u>
	このほか、プレス関係 170 人程度(海外含む)
	※上記は事前の想定人数であり、実績は今後集計
使用言語	日本語・英語

※フォトセッション(左から順に、IFAD/FAO/仏/EU/加/日/米/英/伊/独/WFP/OECD)



G7宮崎農業大臣会合の主な日程



◆4月21日(金)

◎各国大臣等のお出迎え(宮崎空港・コンベンションセンター)





空港では、サポーター(ボランティア)の皆様が、代表の皆様をお出迎えしました。





会場のコンベンションセンターでは、小学生たちがお出迎えをしました。ウェルカムボードは、県内各地の小学生たちが手作りしたピーマンの折り紙で製作されています。

◎装花





県産を中心とした花々が参加者の皆様をおもてなしし、小中学生や小中学校の用務員が育てた 花も大臣動線を彩りました。

◎絵画・ポスターコンクール作品の展示



県内の小中高生の絵画・ポスターコンクールの優秀作品の展示を行いました。

◎セミナー



農をテーマに3つのセミナーが実施されました。

◎歓迎レセプション









歓迎レセプションでは、各国の代表等を含む参加者の皆様や県内の関係者に、宮崎牛やマンゴー、焼酎など、宮崎の食が振る舞われ、その美味しさに高い評価の声を頂きました。

◆4月22日(土)

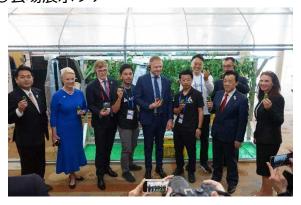
◎高校生の提言(本会合①)





本会合は、高校生の提言でスタート。20人の高校生たちが3つの提言をまとめ、代表らを前に英語で堂々と世界に向けて発信しました。

◎会場展示ツアー





会場内で実施された展示では、ピーマンの自動収穫ロボットや日本農業遺産(大根や ぐら)など、宮崎の農業に関する技術等を PR しました。

◎コーヒーブレイク





会合の休憩時間には、代表の皆様含む会合参加者に対して、県内の学生たちが考案した米粉スイーツを提供しました。

◎ワーキングランチにおける知事・宮崎市長プレゼン





知事・宮崎市長がプレゼンテーションを実施。県・市の農業をはじめ、宮崎の魅力について御紹介しました。

◎キッズプレスによる各国大臣取材





キッズプレス (小学生、中学生) が、各国等の代表を取材しました。

◎大臣主催夕食会





県・宮崎市からの記念品(県:日之影町のわら細工、市:宮崎漆器の弁当箱、箸、箸 置き)を代表の皆様に贈呈しました。

◆4月23日(日)

◎共同記者会見





共同声明に加え、農相会合で初となる行動計画「宮崎アクション」も採択。 記者会見では、キッズプレス(中学生)も代表質問を行いました。

◎現地視察

【宮﨑神宮】





宮﨑神宮での参拝、巫女舞観覧の後、 神宮会館でランチ、獅子舞観覧をされ ました。

【マンゴー園地(仁田脇義彦氏)】





マンゴーの栽培方法の説明やハウス内視察、試食等を行いました。

【宮崎農業高校】





スマート農業の実演、高校生たちの農業に関する取組の紹介を行いました。

◎アフターツアー





会合参加者へのおもてなし等で活躍した子どもたちやサポーターが、終了後の会合会 場を見学しました。

◎空港でのお見送り





飛行機で帰路につく代表の皆様を、サポーターと知事・市長がお見送りしました。

宮崎アクション

我々G7農業大臣は、より生産力が高く、強じんで持続可能な農業・食料システムを達成する ために、宮崎で議論した以下の点を踏まえ、国際社会の一員として積極的に取り組んでいく。

- ロシアのウクライナに対する違法な侵略戦争、自然災害や感染症等の短期的な課題に対応すると同時に、誰一人取り残すことなく、増え続ける世界人口を養いつつ、ネットゼロを達成するために温室効果ガス (GHG) 排出を削減し、生物多様性の損失を食い止め反転させる等の長期的な課題に注力する
- 既存の国内農業資源を持続的に活用し、貿易を円滑化しつつ、地元・地域・世界の食料システムを強化する途を追求し、サプライチェーンを多様化する
- 公平な、開かれた、透明性のある、予見可能な、無差別でルールに基づいた貿易にコミットし、輸出に関するいかなる不当な制限措置もとらない
- あらゆる形のイノベーションの実施や持続可能な農業慣行の促進により、農業・食料システムの持続可能性を向上させる
- 環境に好ましい結果を創出し GHG 排出を削減するため、農業政策の改革・方向転換の努力を必要に応じ強化する
- ワンヘルスアプローチを強化し、AMR(薬剤耐性)や越境性の動物由来感染症及び植物疾病への対策を促進する
- 食料の損失・廃棄を削減し、健康的な食事を促進するとともに、消費者の情報へのアクセスを改善する
- 木材やその他産品のための持続可能な森林経営やアグリツーリズムといった、農業に付随 する収入の多様化の促進、公共インフラの改善を通じて農村の活性化を支援する
- 研究・開発を促進するとともに、地元のニーズや状況に応じた、更なるデジタル化を含む 新規・既存の技術や慣行を拡大・普及させる
- 特に若者や女性、十分な発言力のない人々への訓練、普及サービス、知識共有及び教育、 並びに資金への平等なアクセスを促進する
- 政府、民間セクター、農業者並びにすべての利害関係者間の連携を強化し、農業・食料システムへの民間セクターの投資を促進する環境を整える
- 持続可能な農業サプライチェーンへの継続的な移行を促進するとともに、農業生産によって森林減少・劣化が起こらない持続可能なサプライチェーンへの支援を強化する
- ※ 上記「宮崎アクション」は仮訳です。

この通信は、G7宮崎農業大臣会合協力推進協議会事務局(県庁内)より、活動概要をお知らせするため、不定期で発行しています。皆様からの御意見等もお待ちしています。

G7 宮崎農業大臣会合協力推進協議会事務局総務企画担当 (宮崎県総合政策部総合政策課G7宮崎農業大臣会合推進室内)

電話: 0985-26-7964 FAX: 0985-26-7956 E-mail: g7miyazaki@pref.miyazaki.lg.jp